

小児用肺炎球菌ワクチン接種を希望される保護者の皆さんへ

小児用肺炎球菌ワクチン接種を接種される前に、必ずこの説明書をお読み下さい。

* 肺炎球菌ってなに？

肺炎球菌は、多くの子どもの鼻やのどにいる、身近な菌です。普段はおとなしくしていますが、子どもの体力や抵抗力が落ちた時などに、いつもは菌がいないところに入り込んで、いろいろな病気（感染症）を引き起こします。2歳以下の子どもの場合、肺炎のほかにも中耳炎や、菌が脳を包む膜にまでいく細菌性髄膜炎というこわい病気になることがあります。子どもの細菌性髄膜炎のおもな原因には、インフルエンザ菌b型（Hib：「ヒブ」と読みます）と肺炎球菌があります。この2つの菌が細菌性髄膜炎の原因の約80%を占めています。

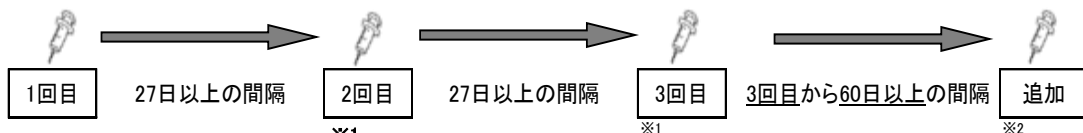
* 小児用肺炎球菌ワクチンについて

子どもの肺炎球菌ワクチンはすでに世界 100 カ国近くで取り入れられ、10 年まえに発売されて以来、世界で何千万人もの子どもに接種されています。日本に入ってくるワクチンは、世界で標準的に使われているワクチンと同じものになります。なお、子どもの肺炎球菌ワクチンについては、WHO（世界保健機関）がすべての国での定期接種をすすめています。肺炎球菌にはいくつかの種類があり、すべての種類についてワクチンが対応しているわけではありませんが、アメリカでは、ワクチンが対応している種類の肺炎球菌の病気は 90%以上減っています。さいわい、ワクチンが対応していない種類の肺炎球菌の病気は多くないといわれているので、ワクチンによる予防がとても重要になってきます。

* 接種間隔について

（対象年齢：生後 2 カ月～5 歳に至るまでの間にある者）

【接種開始が生後 2 ヶ月～7 ヶ月に至るまでの間にある者】 合計 4 回

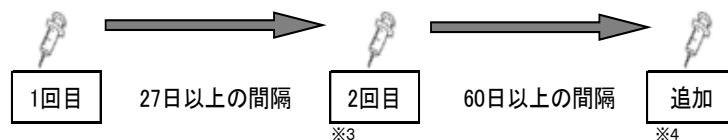


※1) 2回目の接種を1歳未満、
3回目の接種を2歳未満までに行なうこと。

※2) 追加接種は標準として1歳から1歳3ヶ月の間に行なう。

【接種開始が生後 7 ヶ月に至った日の翌日～12 ヶ月に至るまでの間にある者】

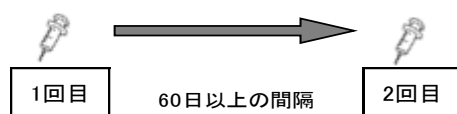
合計 3 回



※3) 2回目の接種は2歳未満までに行なうこと。

※4) 追加接種は1歳以降に接種する。

【接種開始が1歳～2歳に至るお子さんの場合】 合計 2 回



【接種開始が2歳～5歳のお誕生日の前日までのお子さんの場合】 1回接種で終了

裏面もお読みください

*** 小児用肺炎球菌ワクチン接種後の副反応について**

接種部位の局所反応として腫脹、紅斑、硬結などが認められていますが、おおむね軽度で自然に回復します。全身的な副反応として、発熱などが見られます。

＜ワクチン接種後の注意＞

- 接種後30分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師と連絡が取れるようにしておきましょう。
- 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- 接種後1週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなった時などは医師にご相談ください。
- このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合には、6日以上の間隔をあける必要があります。なお、同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。
- 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこすことはやめましょう。
- 接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。

*** 次の方は接種を受けないでください。**

- 明らかに発熱している方。（通常は37.5℃を超える場合）
- 重い急性疾患にかかっている方。
- このワクチンの成分または、ジフテリアトキソイドによってアナフィラキシー（通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんを伴う重いアレルギー反応のこと）をおこしたことがある方。
- その他かかりつけの医師に予防接種を受けないほうがよいといわれた方。

*** 健康被害による救済制度について**

○平成25年4月より、小児用肺炎球菌ワクチン予防接種は定期接種となりました。ワクチン接種が原因により重篤な障害を残すなどの健康被害が生じた場合、厚生労働大臣が当該予防接種によるものと認定した場合、予防接種法に基づく健康被害救済制度があります。

問い合わせ先

飯塚市 子育て支援課 （電話）0948-43-3305 （FAX）0948-21-9508

* 住民票のある市町村にお問い合わせください。